

## (二) 政 治 部

### (1) 政治的危機の激成と無産政黨運動

過ぐる一年間は、満洲事變を機転として、日本の資本主義の一切の矛盾が集中的に爆發し、激成され、かゝる客觀的情勢の變動は一面に於ては、資本家階級の政治的支配それ自體の危機として鋭く表現され、他方又その必然的影響は無産階級の政治運動にも著しい變化を與へた。資本家階級の政治的支配の動搖の傾向は、濱口首相、井上藏相、園田、大藏、首相等の一連の暗殺事件に現はれた白色テロ及び又資本主義の政治的支配群（軍部、官僚、既成政黨）の間に於ける對立、暗闇の激化の事實に於て明瞭に現はれてゐる。明らかにそれは「日本資本主義それ自體の經濟的危機を反映するところの政治不安」である。而して、かゝる如き資本家階級の政治的支配の動搖混亂は、一面に於ては我等無產階級的政治進歩のための最も好き條件たるべきものがあるが、現在は政治的勢力の微弱なる我國の無產階級の解放闘争は、むしろ反對に、この動搖期に際して著しく反動化するブルジョア政治の彈壓の下に、一層苦難なる立場に置かざるを得なかつた。更に又、未だ尙ほ日淺き無産政黨運動は、その内部に包含せらるる幾多の矛盾をこの苦難を通じて清算せねばならなかつた。その一は分裂せる無產階級政治戦線の整備統一であり、その二は不合理なる分裂狀態と未然なる發達の必然的結果として黨との連絡協力のために努力したものである。

て是を是とし非を非としてこの間に善處し、常に黨の決定に對しては協力することを惜しまなかつた。従つて選舉闘争、東北飢餓救濟運動、桜木救援闘争その他の日常闘争に於ても、常に極力黨と協力し、具體的には黨本部の労働委員會を通じて黨との連絡協力のために努力したものである。

### (八) 選 擧 講 研

1、總選舉闘争（昭和七年二月）若櫻内閣の後をうけた大蔵政支内閣によつて第六十議會は一月二十一日解散され二月廿日普選第三回の總選舉が行はれた。云ふまでもなく我が同盟は、全國農業農業黨と協力し極力選舉闘争に努力した。然るに今回の總選舉は、大蔵内閣の景氣回復宣傳や満洲並に上海事件に伴ふ戰爭熱の煽動等の事情の下に、無産政黨に之は極めて不利な條件の下に戰はれたのである。従つてこれをその戦績より見るならば、無産政黨全體としては從來の五名を維持し得たとは云へ從來に比して立候補者の少數であったこと、得票總數が著しく減少すること等に於て見る如く決して數字的には進歩しなかつたといふことが出来る。だが然し、上述の如き特殊な困難の下に於て戦はれた選舉闘争としては、その内容に於て決して從來の結果に劣るものでなく、我國の無産政黨も既に確固たる政治勢力を築き得たることを立證するものである。全國農業農業黨の戦績は左の通りである。

内部に抱含され來つたところの各種の非階級的傾向を批判克服することである。

かくて、外にはブルジョア政治の反動と戰ひ、内にはその被害と矛盾との克服のために戦はねばならなかつたところの日本の無産政黨運動は、勢ひその日常闘争に於ても活潑さを

缺き一見政治運動不振の觀を呈したのであつた。

だが、全國勞農大眾黨の昭和六年度大會が日本に於ては「無產階級陣營に於ける主體勢力の未成熟なるが故に階級對立に於ける政治的危機はない」と斷定主體勢力の強化を急務とするは正しいのであり、その後に於ける各種の事情の急速なる變化は、遂に我等が多年要望せる單一無產政黨社會大眾黨の成立を見るに至り然に我國の無產政黨運動も分裂時代を清算し、没落の危機に瀕せるブルジョア支配権力との闘争に直進すべき基礎を築いたものと云ふことが出来る。

全國勞動は右の如き一般政治情勢の變化に應じて、一貫せらるる同盟の方針をもつて、常に勢力的に闘争し來つたものである。次にその大要を報告して置く。

### (四) 全國勞農大眾黨との協力

日本労働クラブ問題を中心全国勞農大眾黨支持の労働組合の間に於て意見の對立を生じ、これが又黨の問題として討議されたことは別項報告の通りであるが、一時この問題に關聯して黨と我が同盟とが對立關係に置かれてゐるが如き逆宣傳さへ行はれた。然し乍ら我等は、常に黨支持の態度をもつてゐる。次にその大要を報告して置く。

（一）ドレッサーリンガムの沒收！

（二）難兵戰死家族の國家永久生活補償！

（三）○は當選△は次點

（四）言論彈壓絶對反對！

（五）没落資本主義の打倒！

（六）ファシズム反動の粉碎！

（七）物價上昇反對、貨銀保給の引上げ！

（八）小作料減免、納稅猶豫、借金措置令の制定！

（九）候補者得票並に當選（○は當選△は次點）

大矢省	田萬清臣	沼沢裕次郎	森山元治	河上丈太郎	松谷與二郎	金井芳次	大矢省	田萬清臣	沼沢裕次郎	森山元治	河上丈太郎	松谷與二郎	金井芳次	大矢省	田萬清臣	沼沢裕次郎	森山元治	河上丈太郎	松谷與二郎	金井芳次	大矢省
一〇、八四七△	一四、四五九	一五、六〇九△	一八、五一〇	一九、三一九○	一九、五〇六△	五、八六〇	一〇、八四七△	一四、四五九	一五、六〇九△	一八、五一〇	一九、三一九○	一九、五〇六△	五、八六〇	一〇、八四七△	一四、四五九	一五、六〇九△	一八、五一〇	一九、三一九○	一九、五〇六△	五、八六〇	一〇、八四七△
水谷長三郎	杉原健三	河上丈太郎	松谷與二郎	金井芳次	大矢省	田萬清臣	水谷長三郎	杉原健三	河上丈太郎	松谷與二郎	金井芳次	大矢省	田萬清臣	水谷長三郎	杉原健三	河上丈太郎	松谷與二郎	金井芳次	大矢省	田萬清臣	水谷長三郎
一、三六七七△	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六	一、三九六

尚ほ、今回の總選舉に際しては、日本労働クラブ第四回懇談會に於て、クラブ加盟團體は夫々の支持政黨を通じて選舉